



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア タールジ! : こんにちは!)

第16回目 11月1日(月)~11月6日(土)までのレポート



11月1日(月) モヘッチスとバヘアード リベンジ

今日は、日曜日と祝日の狭間の休日。今日が晴天になるという天気予報を信じ、昨日のうちにモヘッチス行きの電車とバスを予約しておきました。7月に一度モヘッチス旅行には行ったのですが、あいにくの天気で、せっかくの景色を見ることができませんでした。その時から、是非もう一度リベンジし、美しい景色を見たいと思っていました。今日は晴天。駅まで、徒歩で30分弱。いよいよ電車の出発です(左写真)。

山間に入る前に、パラナ松(右写真)をたくさん見ることができる所に来ると、ガイドさんが木の説明やその木の実の実物を見せながら説明してくれました。ポルトガル語を理解できない私にも、何とか説明しようと申し訳ないくらい親切にがんばってくれました。



途中で、何か所かトンネルがありました。ブラジルには、あまり電車が走っておらず(ほとんどが貨物電車で観光用以外は無いようです)、トンネル自体が珍しいみたいで、トンネルに入るとわざと電気も真っ暗にするため、乗客(ブラジル人達)は奇声を上げて大はしゃぎです(上写真)。明るいブラジル人が真っ暗な中で、さらに明るくなりました。

さすがに、今日は天候に恵まれ、景色は最高でした。鉄橋を渡る時などは、かなりのスリルを味わうこともできました(右写真)。



モヘッチスの町に近づく頃に、左写真のように、子どもが線路沿いに立ち手を振ったり電車を追いかけていたりしていました。これは、電車が珍しくそうしているわけではありません。電車からお菓子を投げしてくれるのを待っているのです(周辺の家から想像すると、この



町はずれに住む人たちは、かなり貧しい生活をしているみたいです)。

モヘッチスの町で、先回と同じ店に入り、お目当てのバヘアードを食べました(右写真)。12時間以上煮込んだビーフやベーコンなどの



肉にライスだけでなくバナナやオレンジも混ぜて食べます。今回は、自分の好みで、マンジョーカの粉をかけないで食べました。なんだか、好天のせいかな前回よりもさらに美味しく感じました。食後、近くのニュンディアケラ川を散策し、のどかでゆったりした気分を味わうことができました(左写真)。



11月3日(水) クリチバ市評議会訪問



今日は、クリチバ市の評議会を訪問しました。(以前にも書きましたが) 評議会というのは、教育局長のすぐ下部に組織され、教育局の決め事を話し合う最終機関です。多少日本とは異なりますが、日本の教育委員会に相当すると思います。私の予定では、今日はここで、日本の教育について説明するつもりでした。以前、そういう依頼があったので、この訪問を組み込んでいました。しかし、いざ訪問してみると、そのような連絡は通じていない様子で、会長さん(左写真)が笑顔で迎え入れてくれただけでした。

気を取り直し、評議会について、お話を伺うことにしました。

この評議会は、幼児教育、9年間の基礎教育、学校経営の3部会に分かれています。3部会では、市事務局や学校から提案された内容や国や州での決め事について話し合います。話し合った内容で、全体会にかける必要のある事案は、最終的に全体会で議決します。議決されたことを教育局長に提出し、教育局長がサイン(決裁)し、初めて決め事や法律が決まっていくそうです。

メンバーは評議員15名と各評議員の補佐役15名の計30名いますが、議決には評議員しか参加できないそうです。各メンバーは3部会に別れている以外に、特殊教育などの特別部会にも所属し、様々な内容について検討を加えているそうです。評議会は、退職教員代表・教育事務所代表・校長代表・PTA代表・大学代表・州局代表・市議代表など、ほとんど教育関係者でした。日本の教育委員会のように一般市民(企業人など)を入れている市もあるそうです。

今、一番問題にしているのが、特別支援教育だそうです。今、国では、特別支援学級をなくしたり、特別支援学級に在籍する子どもできる限り通常学級で同じように教育したりするように方向転換しています。しかし、耳や目の見えない子どもたちには、それなりの対応をすることで通常学級での授業も可能だが、知的障害の子には、それは大変難しいことだとクリチバ市は考えています。そのため、あえて、クリチバ市では、特別支援学校や特別支援学級を存続し、その子の社会参加を支援するため、その子に合った学習の場を保障しようと考えているということです。州立学校訪問時に、「特別支援教育はどうなっていますか」という質問を多く受けました。それは、現在国が進めている方針に先生方が疑問を持っているからだと思います。市では、国の方針とは別な形で進めようとしています。市と国の方針が違って良いのか確認したところ、まだ、国の考え方が法律化されておらず、法律化までは、子どものことを考えて、クリチバ市の方針を進めるとのことでした。ブラジルの教育の難しさを今日も考えさせられました。

最後に、評議会が来週持たれるということだったので、来週、再訪問し、日本の教育についての説明をさせて頂くという約束をしました。右写真は、忙しそうに働く事務所の人たちです。



11月5日(金) 連邦大学での講義

今日は、クリチバ市にある連邦大学（日本でいう国立大学）で講義をしてきました。ブラジルでは、幼児教育から高校生の教育までは私立学校の方が格段に充実しています。しかし、大学だけは、連邦大学（国立）や州立大学が超一流です。それは、公立大学は授業料が無料だということ、昔からの歴史（ステータス）をもっていることもあるようです。



講義は、夜の7時からの約束でしたが、準備・打ち合わせ等もあるので6時に大学へ行く約束がしてありました。ホテルから3km弱の所にありましたが、タクシーを使う予定で、5時40分にホテル出発にしてありました。ところが、5時半ぐらいから急激な豪雨。これはまずいなと思いながらも、時間通りにホテルを出発しましたが、タクシーがつかまりません。6時になってしまったので、再度ホテルに戻り、遅れる旨を大学へ連絡。大学からは、大学で依頼したタクシーをホテルに回すのでホテルで待っているように指示。そのままホテルで待つことにしました。しかし、いくら待ってもタクシーは来ず。結局タクシーに乗り込んだのは、7時過ぎ。渋滞の中、大学に到着したのは、7時半頃。30分遅れで講義をはじめました。しかし、ブラジルの人は、こういう天気の時、こうなるものだと分かっているようで、私の遅れをちっとも気にしていない様子でした。これもブラジルの一面かなと思いました。

講義受講者は、連邦大学の日本語科の学生がほとんどで、日本語と日本語文化を学んでいます。いつもと同様の話をしましたが、教育関係者ではなかったため、講義後の反応は、これまでとは多少異なりました。しかし、今回の質問中で、これまでになかった質問がありました。それは、「ブラジルで



1日制を実施しようとした時の問題点は何か？」というものでした。私の今回の訪問の核心に迫る質問で、これまで教育関係者からどうしてこの質問が出なかったのだろうかこちらがドキッとしましたし、逆に、大変うれしくもありました。私が考えるポイントとして、次の3点を提案しました。まず、スペースについてです。ブラジルの学校は小さく、それを効率よく活用するために、午前の部・午後の部（すごいところは夜間の部）が設定され、2部制になっています。1日制実施のためには、学校のスペースを大きく切り替える必要があると指摘しました。2点目は授業内容の検討です。一日制実施のためのカリキュラム内容です。今は、2部制で短時間の中でのカリキュラムなので、限られた教科指導のみになっています。それを1日制に変えるならば、どのような内容のカリキュラムにするか検討しなければなりません。3点目は、教師の意識と質です。今は、教師が2部制の中で、限られた教科中心指導を行うという意識でいます。それを一日制ではどのような教育を行うのかという意識の変革と、1日制を実施するに堪える研修が必要です。このようなことについても、いつか州の教育局の方に話す機会が欲しいものだと思います。



11月6日(土) CELIN 授業参観

昨日、連邦大学で講義をした際に、CELIN という日本語教室についての話がありました。是非参観したいとお願いし、今日、参観させて頂くことになりました。CELIN は連邦大学が行っている外国語講座で、日本語だけでなく、中国語・スペイン語・フランス語・韓国語などの言語習得のための講座です。この講座は、私的な機関が行っている外国語講座と異なり、60時間(1ステージ)×6ステージを修了(3年間)した者に講座修了の資格が与えられ、履歴書にも記入することができる価値ある講座です。左写真は、CELIN を行っている建物で、中には小部屋がいくつもあり、小さな講座を行うことができるようになっていました。

実は、日本語講座の講師の一人が今回の渡伯にお骨折りを頂いた田丸さんで、今日は、田丸さんの授業を参観させて頂きます。授業の前に、教材などを見させてもらいました(右写真)。日本語指導に関する本や辞書など、結構な品揃えでした。日本から寄付してもらった物も多いという話でした。



田丸さんの講座は中級講座で、約 300 時間経過した生徒達が対象でした。生徒は8名。会社員・弁護士・現役大学生で構成され、将来日本へ行きたいという希望を持っている人ばかりでした。どの生徒も、簡単な会話、自己紹介などができる程度の力をもっています。それでも、次回の日本語能力検定は4級を受験する程度だそうです。ちなみに、現在通訳をしているアケミさんは、日本語能力検定1級ですから、たいしたものです。



本日の授業は、大変むずかしい「敬語」についてです。相手から何かをしてもらう時の敬語の使い方の学習。数語の熟語に含まれる漢字について調べ、それらを利用して文を作る学習(例:「看護婦」「医者」「必要」という熟語のそれぞれに含まれる各漢字を、2名1組で辞書を使って調べ、さらに、3つの熟語を使って単文を作る。今回は「医者は手術にはメスが必要です。看護婦は、医者にメスを取って渡します」という文を生徒が作っていました。右写真)。後半は、「拝啓・敬具」を使った手紙文の書き方の学習と日本語の歌(上を向いて歩こう)の練習でした。

盛りだくさんの学習内容で、しかも、敬語という難しい内容でしたが、生徒達は真剣に取り組みながらも、クラスの雰囲気は楽しく、4時間の授業が気持ちよく過ぎました。私も、田丸さんから2度ほど説明を求められたので、筆順の必要性和手紙文についての解説を即興で行うことになってしまいました。でも、私も、楽しかったです。こんなふうにして、日本語の学習に真剣に取り組んでいる生徒がブラジルには結構いるそうです。

